

【浜松読書文化協力会長賞】

「みとる」って何だろう

浜松市立北浜北小学校 二年 平野 和奏

「みとる」ということばをはじめて知った。

「みとる」とは、死ぬときにいっしょにいること。にしやんが、かっている犬のどんすけをみとると言ったとき、わたしはちよつとこわいと思った。ドキドキした。

どんすけは、にしやんにはじめてできた友だちだ。人とあまり話さないにしやんにとつて、すぐ大せつな友だちだったと思う。さし絵の中に、にしやんとどんすけがいっしょにあそんでいる絵がある。とても楽しそうであわせそうだ。そのどんすけがもうすぐ死んでしまうなんて、どんなにかなしい気もちだろう。どんなにこわいだろう。

わたしには、大せつなおじいちゃんがあった。近くにすんでいたの、毎日のように会って、いっしょにあそんでもらっていた。わたしは、おじいちゃんが死んでしまったときのことをよくおぼえていない。でも、毎日いっしょにいて、かわいがってくれたおじいちゃんが天国へ行ってしまったと思うと、今でもとてもかなしい気もちになる。にしやんも、いつもいっしょだったどんすけとおわかれするのは、すぐかなしくて、心がいたかったと思う。

わたしだったら、大せつな人がいなくなるとき、ずっとそばにいられるかな。にしやんは、目をじたままうごかないどんすけをやさしくなでてあげたり、大きなこおりをそばにおいてやったりしていた。大せつな友だちが、すこしでもらくになるようにしてあげたんだね。にしやん

は、つよくてやさしいな。

「どんすけは、死んだって死なないんだよ。」とにしやんは言った。どんすけは、死んだらじぶんが生まれた栄村にかえる気がする。そして、どんすけは、大風がふいた日に、風にのって出かけるように死んだ。にしやんは、どんすけとちゃんとおわかれができたんだね。

この話を読んで、「みとる」って、ありがとうを言ってるちゃんとおわかれすることだと思った。やっぱちよつとこわいけど、ちゃんとおわかれができる方が、わたしはいいな。

書名 山のちようじょうの木のでつぺん
著者名 最上 一平
発行所 新日本出版社